

南アフリカ為替週報

2022年5月12日 | みずほ銀行欧州資金部

MIZUHO

＜過去1週間の動き＞

(5月5日～5月11日)

USD/ZAR: 15.5000～16.2650
ZAR/JPY: 7.99～8.38 (参照値)

過去1週間の南ア・ランド相場は、想定外に明確な下振れ。5日の急反落を皮切りに、軟調推移が先行、9日には対ドルで直近安値(5月2日の16.1950)を割り込み、昨年11月来の安値を更新した。10日以降若干の反発を見せたものの、昨年末来の安値圏における膠着を抜け出すことはなかった。5日のランド急反落の理由は、3日、4日の急反発の理由同様ははっきりしなかった。更に言うなら、そもそも2日のランド急落の理由からしてよくわからなかった。2日は南アその他、英国も休日で、流動性の乏しい市場で、明確な要因もなくランド急落が進んだ。敢えて挙げるなら、5日のランド急落はドル高の反面と考えることもできなくはなかった。同日、米10年国債利回りは3.0%を明確に上抜け(後述)、ドル全面高を誘った。ただ、並行してランドは対円、対ユーロなどでも明確に水準を切り下げており、局面の値動きをドル高だけで語るには無理が感じられた。6日以降、南ア株、南ア国債がそれぞれ急落したのは、並行したランド続落を招く原因になったと考えることもできたが、5日のランド急落を受けた結果と位置付ける方がむしろ適切と思われた。週末に実施された与党アフリカ民族会議(ANC)の東ケープ州支部役員選で、ラマポーザ大統領の側近であるマブヤネ議長が再選を果たしたこと(結果発表は9日までずれ込んだ)、同議長が12月の同党党首選に向けラマポーザ大統領への支持を表明したことは、同大統領の党内基盤拡充、各種改革に向けた推進力の高まりという意味でランドにも好材料と受け止めることができたはず。確かに、前後してランドは堅調推移に転じたものの、この選挙結果がどこまでランド堅調に寄与したかは定かではなかった。

＜過去1週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
5/9	6:00	総外貨準備高(USD)	4月	60.28bn		58.16bn

＜向こう1週間の見通し＞

(5月12日～5月18日)

USD/ZAR: 15.900～16.300
ZAR/JPY: 7.95～8.20

向こう1週間の南ア・ランド相場は、方向感に乏しい膠着を予想。直近3週間余りのランドの値動きはランド(全面)安と表現しても差支えなからうが、過去2年余りの値動きを振り返ると、また違った構図が見えてくる。ドル/ランドが2020年安値(19.3590)→2021年高値(13.4150)の半値戻し(16.3870)を再訪しようとしている事実とは裏腹に、対円、対ユーロで、ランドは今年3月に一旦2021年高値を上抜けており、引き続き(過去2年間の)高値圏と言える水準にとどまっている。つまり、過去2年余りの推移を大局的に見れば、進んできたのはランド安であるよりも、むしろドル高であったと位置付けることもできるわけだ。であるならば、ランドの今後の方向感を見極める上でも、ドルの方向感が重要な指針を示すものと考えられる。目先のランド膠着を見込むのは、南ア側にランドの方向感を示す決定的な要因が見当たらない一方で、ドルの上昇余地も限定的になりつつあると考えるから。ドル高の背景に、先行する(コロナ禍からの)米景気回復と米連銀利上げがあるのは疑いようもないが、過去30年余りの米連銀利上げ局面(4回)を振り返れば、米利上げ局面とドル高局面とは必ずしも一致しない。大雑把なパターンを言えば、ドル上昇は利上げ開始が見込まれる局面に前後して大きく進み、実際に利上げが始まってしまうと、程なくドルは天井を打ち、その後調整安局面を見てきた。今般の米利上げ局面でも、利上げの織り込みが一巡した段階でドルが頭打ちになる可能性は高いのではないか。ただし、仮に今般典型的なパターンをたどるとしても、今の段階でドルの反落を中心に見込めない理由として、①ドル頭打ちの水準/タイミングを正確に予測することは不可能である上、今般は②利上げで追随するはずのユーロを買えない特殊事情=ウクライナ戦争がある点を挙げることができよう。

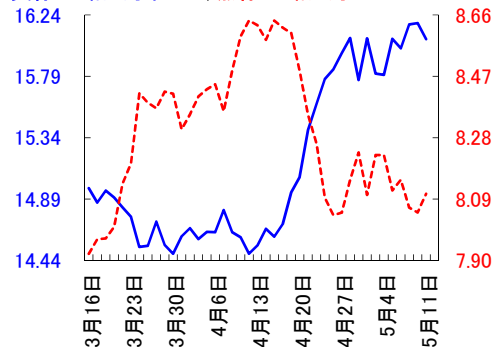
＜向こう1週間に発表予定の主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
5/12	9:30	鉱業生産(前年比)	3月			-6.0%
	11:00	製造業生産(前年比)	3月		-1.4%	+0.2%
5/18	11:00	小売売上高(前年比)	3月			-0.9%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

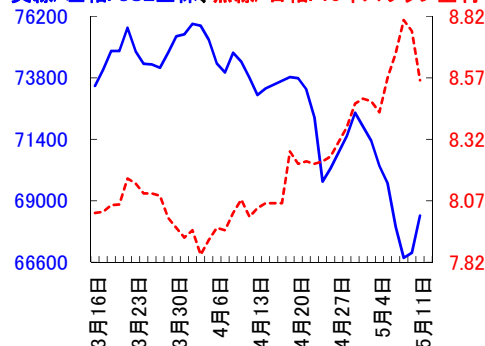
為替相場の推移 (資料: ロイター)

実線/左軸: 対米ドル、点線/右軸: 対円



株式/長期金利の推移 (資料: ブルームバーグ)

実線/左軸: JSE全株、点線/右軸: 10年スワップ金利



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)		4.25%
長期金利(10年スワップ)	5月11日	8.560%
株価指数(JSE全株)	5月11日	68416.41
成長率(GDP/前年比)	Q4	+1.7%
経常収支(ZAR)	Q4	+120bn
失業率	Q4	35.3%
消費者物価(前年比)	3月	+5.9%
小売売上高(前年比)	2月	-0.9%
製造業生産(前年比)	2月	+0.2%
鉱業生産(前年比)	2月	-6.0%
貿易収支(ZAR)	3月	+45.9bn
金価格(ロンドン17:00)	5月11日	1852.30

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。